

IT活用の経営術 (第3回)

IT経理のすすめ 会計ソフトの導入

(有)アドラック 代表取締役
 OCPビジネスプロデューサー 宇佐美康司

私は再就職者向けにパソコン講習をやっています。ハローワークの求人募集の採用条件には大体「パソコンが使える人」と記載されています。運転免許証とパソコン資格が就職するための必須条件となってきたようです。

そして求職者に求められるパソコンスキルで一番要望が多いもの、それはワード、エクセルと会計ソフトなのです。

一方で「会計ソフトを買ったけど導入できなかった。」「結局面倒で使っていない。」という人も多いです。今回は会計ソフトの導入を考えている人、購入したけどまだ使っていない人に向けて導入のポイントをお話します。

1. 導入の目的と目標そして導入メリットを考える

これをしっかり理解することが、導入を成功させるモチベーションとなります。

1つ目の導入メリットは、50万円から100万円くらいの経費削減効果です。あなたが手書き伝票を会計事務所に渡して決算報告書を作って貰うだけで税務相談しないのなら、会計ソフトを使って自分で確定申告すればこの顧問契約料をカットすることも可能です。

あなたは一年間に何回税務相談されていますか？

毎月末に奥さんが会計事務所に渡す振替伝票を手書きしていた企業が、会計ソフトを導入して顧問契約料80万円のコスト削減した例もあります。この奥さんはもともと振替伝票を手書きしていたので、2日間の導入指導で会計ソフトに移行できました。そして奥さんに会計ソフト入力料として30万円お渡しするようにしたそうです。

この場合、導入メリットは経費削減と奥さんの労働に見合う報酬支払い、導入目的と目標は奥さんのねぎらいと感謝の気持ちの具現化でしょうか。

2つ目の導入メリットは、ドンブリ勘定の経営から脱却することです。税務署報告用の財務諸表作成を目的とする税務会計だけでなく、経営者の意志決定や業績管理のための管理会計を行うことで、経営の効率化を図ることに活用できるのです。

特に今のような不況の時代に対応するには、売上げと経費を見直し経営の効率化を図ることが重要です。計画との差を分析して迅速に対応するためにも、自社で伝票入力し月次決算を行える会計ソフトは有用なのです。

財務会計と管理会計

	財務会計	管理会計
目的	会計情報を、企業外部の利害関係者(株主、債権者、徴税当局など)に提供する	会計情報を経営者の意思決定や組織内部の業績測定・業績評価に役立てる
ルール	一定のルール(会計基準や各種法律)が定められている	企業の内部で利用する会計データであり、従わなければならないルールはない
情報の性質	企業の業績についての過去情報といえる 情報の正確性が最も要求される	情報の正確性だけでなく、目的に合っているか、効果があるのか、そして情報の鮮度が最重要である

2. 導入の手順

今伝票を起こして勘定元帳を手書きしている人であれば、パソコン操作を覚えるだけで簡単に移行できます。しかも伝票を起こす代わりに入力するだけで、勘定元帳への転記もすべて完了してしまいます。ただし、会計ソフトの場合は最初にある程度の設定を行い、標準的な操作を覚えておく必要があります。ワードやエクセルのように使いながら新しい機能を覚えていくといった方法では導入できないのですが、取扱説明書を読んで独学で導入しようとして挫折する人は多いです。

山梨県内の会計事務所でも会計ソフトの導入指導を積極的にやっているところが増えてきました。山梨県中小企業団体中央会などは無料導入セミナーも開催しています。

パソコン操作は頭だけでなく体で覚えるところが車の運転と似ています。教習所に行くような気持ちで導入指導を受けることをお勧めしています。

3. 人材育成あるいは人材活用

パソコン入力が苦手な経営者なら、奥さん、娘さん、あるいは信頼できる社員をIT経理マンに育成しましょう。ただ一流の経営者は財務に強いですから、財務諸表を読み取ることは出来るようになって欲しいです。

最後に、IT経理事務の能力をもった人を採用することも検討してください。再就職に向けて会計ソフトや簿記を学ぶ人は多いです。不景気の時代は、有能な人材を発掘するチャンスでもあるのです。